

University of Science, Arts and Technology

引照元表示に関する指示- 学士・修士課程用

2009年10月改訂

概要

「引照表示」とは他の著者によって書かれた文献を「引用」したり「言い換え」したりしたことを示すものです。直接の引用はもとより、ある考えや記述を言い換えた場合も引照表示を行う必要があります。引照表示を行わないで論文を提出すると、「剽窃（ひょうせつ）」になる可能性があります。剽窃行為とは、他の人のアイデアをあたかも自分の考えかのように示す行為のことです。剽窃行為を避けるためには、自分の研究課程期間中に使用したすべての文献の情報源を明記し、読者が情報源を容易に見いだせるように十分な詳細を記述する必要があります。情報源を示すことにより、研究課程において自分の研究タイトルに関する書籍や文献をどれほど多く読んだか、また自分の論議や結論がどんな権威や根拠に基づいたものかを示すことができます。使用したすべての情報の記録をとることは非常に大切です。こうすることにより、自分の情報源を正確に記載することができます。

研究論文を始める前に以下の指示全体を読んでください。これは、英文の「Harvard Citation System」に基づき日本語論文用に加筆修正したものです。

Part 1 – 引照数および頻度に関する規約

引照数：

引照しなければならない最低限の回数は論文全ページを2で割った数です。例えば、20ページの論文では、最低10回の引照を行う必要があります。80ページの論文の場合、最低40回です。上限はありません。通常、引照が多いほど論文の評価が上がりますが、全体が引照だけで終わってしまったような印象を与える論文はかえって評価が低くなってしまいますので注意が必要です。

引照頻度：

同一の文献から20%を超えて引照してはいけません。例えば、25回引照を行った場合、同一の文献からは5回まで引照できます。論文作成中に数を超えてしまった場合は、他からの引照を増やすか、その文献からの引照を減らす必要があります。通常、同一の文献からの引用は15%以下に抑えるのが最善です。

Part 2 MS Word における引照元表示の挿入方法

- 1) 引照部分の最後（閉じカッコの後ろ）をクリックします。カーソルが移動します。
- 2) 画面の上のメニューの「挿入(I)」をクリックします。サブメニューが出ます。
- 3) 「参照(N)>」をクリックします。さらにサブメニューが出ます。
- 4) 「脚注(N)」をクリックします。「脚注と文末脚注」ウィンドウが開きます。

- 5) 「脚注(F)」 ボタンをクリックして、「ページの最後」が選ばれていることを確認します。
- 6) 下の「挿入(I)」 ボタンをクリックします。本文中に脚注数字が入り、カーソルがページの最下部に移動します。
- 7) 引照資料に関する情報を入力します。入力する情報については以下を参照してください。文字の大きさは 8 ポイントにします。本文中の脚注番号は自動的に挿入されます。

注：Word のバージョンによって多少やり方は異なりますが原則は同じです。ヘルプなどを参照してください。

Part 3 – 引照箇所を明示する方法（本文内で）

他の文献から直接引用する場合：

かぎカッコ「」で囲む必要があります。閉じかぎカッコの後ろに、脚注という形で引照元の情報を挿入します。

例：D.カーネギーは「人を動かす唯一の方法は、その人の好むものを問題にし、それを手にいれる方法を教えてやることだ」¹とっている。

特定の著者の考えや記述を言い換えたり簡略的にまとめたりした場合：

言い換えた部分の文や句の後ろに丸カッコ（ ）をつけて著者名と出版年の両方を挿入します。かぎカッコは使いません。丸カッコの後に、脚注という形で引照元の情報を挿入します。

例：古代文明において教師や教育者は地域共同体の中で敬意を受けていた（山田太郎博士、2005）²。

言い換えの際、著者の名前がそのまま本文中に現れる場合：

その著者名の後ろに丸カッコ（ ）をつけて、カッコ内に出版年のみを挿入します。閉じ丸カッコの後に、脚注という形で引照元の情報を挿入します。

例：山田太郎博士（1957）³は、次のことを発見しました。

Part 4 – 引照元表示に含める情報

引照元の情報を含める目的の一つは、後で論文審査を行う際に、文献の参照元を容易に検索できるようにするという事です。下記に引照に含めるべき情報の原則を示しますが、すべてがこのとおりに行えるとは限りません。例外的なものも発生しますが、情報源にあわせて執筆者の判断で調整することができます。上記の目的に沿ったものであれば多少の形式の変更は許容されます。不明な場合は大学担当者にお尋ねください。

書籍・文書からの引照：

¹ D.カーネギー（1981）著 山口博訳「人を動かす」第二部 人に好かれる六原則、p129、創元社

² 山田太郎博士（2005）著「古代文明における教育」第一章 古代文明の「教師」たち、p32、聡明社

³ 山田太郎博士（1957）著「古代文明における教育」第一章 古代文明の「教師」たち、p32、聡明社

書籍から引照する場合、表紙や表紙裏のページなどから情報を取得します。**脚注**に以下の情報を含めます。

1) 著者名（訳者名）、2) 出版年、3) 書籍名および副題、章名、4) ページ番号、5) 出版社名

例：D.カーネギー（1981）著 山口博訳「人を動かす」第二部 人に好かれる六原則、p129、創元社

他の書籍の章からの引照：

ある書籍（A）から引用しようとしたところ、該当部分の一部が別の書籍（B）から引照を行っていた、ということがあります。できるだけその引照元の情報を入手することが望ましいですが、多くの場合それは困難で、実際的ではありません。

例えば、国際交流基金出版の「教授法入門」という書籍（A）がありますが、その122ページで、E.P. ヒューズの言葉「英文学には高潔な理念があり、世界で最もすぐれた文学である」が言い換えで引照されています。この部分は「ヒューズの教授法」という書籍から取られたものですが、そこから直接引用しているわけではありません。この「ヒューズの教授法(1962)」が入手できればすべての情報が手に入りますが、実際には入手困難かもしれません。

こういった状況の場合、**脚注**に以下の情報を含めます。

1) Bの著者名、2) Bの出版年、3) Bの書籍名および副題、章名、4) Aの著者名、
5) Aの書籍名および副題、章名 5) Aの出版社名、6) Aのページ番号 7) 最後に「より」を入れる。

例：語学教育研究所(1962)、「英語教授法辞典」『ヒューズの教授法』。国際交流基金、「教師用日本語教育ハンドブック7 - 教授法入門」、凡人社、p122より

校訂本からの引照：

ある著者が書いた文献を別の著者が校訂本という形で改訂したものを出版することがあります。この場合校訂者の名前の後に（校訂）という言葉を入れます。校訂元の著者名を入れるかどうかは自由です。

例：山田太郎博士（校訂）「山を動かす」

新聞・雑誌記事からの引照：

新聞・雑誌記事から引照する場合、**脚注**に以下の情報を含めます。

1) 筆者の氏名（分かる場合）、2) 記事が出版された年、3) 記事タイトル、4) 新聞・雑誌名、5) 記事の日付や号数、6) ページ番号

例：井芹昌信(2005)「家庭とインターネット10年」北海道新聞夕刊、12月10日付 p1

例：町田健(2007)。「言語世界地図 フィリピン」、Foresight フォーサイト7月号、p59

電子雑誌記事やWebサイトからの引照：

電子雑誌記事や Web サイトから引照する場合、含める情報は基本的に、印刷された雑誌記事からの引照と同じ方法で行いますが、それに次の項目も追加します。[オンライン][アクセスした日付]「(Web サイト)から入手」の表現

例：峰岸真琴（2001）。『言語類型論の新たな地平』『言語類型論から多言語教育へ』[オンライン][2007年7月31日アクセス]

ス][http://www.coelang.tufs.ac.jp/common/pdf/gengo08_20050817.pdf から入手]

辞書・百科事典からの引照：

一般的によく知られた辞書や百科事典などから引照する場合、編集者や出版社の情報を掲載する必要はありません。脚注に以下の情報を含めます。1)辞典・辞書名、2)出版年、3)項目名、4)ページ番号

例：*New Encyclopaedia Britannica*(英文)(1988). Microradiography, 第15版 p.1374

学術論文・学位論文からの引照：

通常の情報に加え、学位レベル（学士、修士、博士など）および学位付与大学名を付記します。

例：寺島崇司(2004)「教育現場における応用神経科学および大脳生理学の活用－右脳と左脳のメカニズム（英文、原題 *Utilization of Applied Neuroscience and Physiology in Education - Mechanism of the Right and Left-Brains*）」教育学博士、サンクト・ペテルブルグ国立大学

会議レポート、議事録、会報からの引照：

会議レポートなどの情報から引照する場合、脚注に以下の情報を含めます。

1) 筆者の氏名、2) 会議が催された年、3) 講演の主題、会議の議題名、4) 会議の日付と場所、5) 会議を主催した組織に関する情報

例：山田太郎 (1988)、「公立高校における言語教育」、1988年10月6日、神奈川県川崎市、アジア語学研究所

電子媒体（CD-ROM、VCD、DVDなど）からの引照：

CD-ROM、VCD（ビデオCD）、DVDから引照する場合、脚注に以下の情報を含めます。

1) タイトル、2) 発行年、3) ディスクのタイプ（CD-ROM、VCD、DVD）、4) 出版社名

例：「CDブック 耳で覚えるはじめての中国語」(2005)CD-ROM、ナツメ社

Email 通信からの引照：

Email 通信の引照は検索できないので、脚注には含めません。論文本文中に簡潔に情報源の氏名および日付を明記します。

本文中の例：山田太郎博士（2007年7月25日）は筆者宛の Email の中でこのように書いた。「…」

Part 5 – 参照資料一覧（引照元表示）の作成

論文の最後に参照資料一覧（引照元表示）を作成する必要があります。引照元を文献の項目別に分けて明記してください。類別の方法は調整してかまいません。以下は参照資料一覧（引照元表示）の一例です。

1 書籍・文書・新聞・雑誌記事など

D.カーネギー (1981)著 山口博訳「人を動かす」第二部 人に好かれる六原則、p129、創元社

語学教育研究所(1962)、「英語教授法辞典」『ヒューズの教授法』。国際交流基金、「教師用日本語教育ハンドブック7 - 教授法入門」、凡人社、p122より

山田太郎博士（校訂）「山を動かす」

井芹昌信(2005)「家庭とインターネット 10 年」北海道新聞夕刊、12 月 10 日付 p1

町田健(2007)。「言語世界地図 フィリピン」、Foresight フォーサイト 7 月号、p59

2 電子雑誌記事やWebサイトなど

峰岸真琴（2001）。『言語類型論の新たなる地平』「言語類型論から多言語教育へ」[オンライン][2007 年 7 月 31 日アクセス][http://www.coelang.tufs.ac.jp/common/pdf/gengo08_20050817.pdf から入手]

3 辞書・百科事典・学術論文・学位論文・会議レポート、議事録、会報など

New Encyclopaedia Britannica(英文)(1988). *Microradiography*, 第 15 版 p.1374

寺島崇司(2004)「教育現場における応用神経科学および大脳生理学の活用－右脳と左脳のメカニズム(英文、原題 *Utilization of Applied Neuroscience and Physiology in Education - Mechanism of the Right and Left-Brains*)」教育学博士、サンクト・ペテルブルグ国立大学

山田太郎 (1988)、「公立高校における言語教育」、1988 年 10 月 6 日、神奈川県川崎市、アジア語学研究所

4 電子媒体 (CD-ROM、VCD、DVD) など

「CD ブック 耳で覚えるはじめての中国語」(2005)CD-ROM、ナツメ社

5 その他

該当なし

一通り論文を作成し終えてから、この一覧を作成することをお勧めします。以下の方法で行うことができます。論文全体を大きく操作するので、バックアップを作ってから作成することをお勧めします。(すべてが削除されるという最悪の結果を避けられます)

ステップ1 ー引照元の貼り付け作業

- 1) 論文の作成が終わる。脚注部分にすべての引照元表示が記されているか確認する。
- 2) 脚注部分（ページの一番下）をクリックする。どの脚注でもよい。
- 3) 画面上の「編集」メニューをクリックする。
- 4) サブメニューの「すべてを選択」をクリックする。脚注部分が全部白黒反転します。
- 5) 脚注部分全部をコピーする。
- 6) 論文の最後のページの「参照資料一覧（引照元表示）」の部分をクリックする。
- 7) ペースト（貼り付け）する。コピーした引照元表示が全部コピーされます。
- 8) 引照元表示部分の文字サイズが 8 ポイントであることを確認します。
- 9) 一度このファイルを保存します。

ステップ2 ー引照元の類別作業

- 1) 引照元表示を項目別に分けます。(コピー・ペースト機能を使うと便利)
原則的に項目は「1 書籍・文書・新聞・雑誌記事など」「2 電子雑誌記事や Web サイトなど」「3 辞書・百科事典・学術論文・学位論文・会議レポート、議事録、会報など」「4 CD-ROM、VCD、DVD など」「5 その他」の 5 つに分けるが必要に応じて増やしたり減らしたりできる。
- 2) 各項目内を著者名別に並べ替える。(コピー・ペースト機能を使うと便利)
- 3) もう一度このファイルを保存します。

